



# の み が わ

2009年2月4日発行（通算第52号）

連絡先 〒146-0085 大田区久が原4-19-24

発行 大坪庄吾方 呑川の会

呑川の会 e-mail [nomigawa@r00.itscom.net](mailto:nomigawa@r00.itscom.net)

呑川の会HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>

高橋会員HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



## カウウの囲い込み猟

会員高橋光夫さんの観察記

先日白石さんが2009/1/18に見た呑川の「ボラの大群」の、次のような写真を送ってくれました。



「仲之橋」～「根方橋」で見られたそうです。本当に「大群」にふさわしい状況ですね。私がこの領域でボラの大群を見たのは、3年前(2006年)で次のような状況でした。



この区間は自然河床に近い感じですから集まりやすいのでしょうか。

それでも白石さんの写真に比べれば、とても少ないですね。

この時、私はボラは淡水域にはあまり登らないだろうと思っていましたから、感潮域の池上橋を越えてここまでやって来たのは本当にビックリでした。

3年前のこの状況を見て、その時はすぐボラの様子を観察を続けようと思いました。

ところがこの写真の次の日にはもう見られません。

そこで、どういうときにボラは遡上をするのか調べることにしました。

まずは潮の干満のタイミングとの関連を見るべく、満潮のタイミングに観察しましたが、見られる時と見られない時があります。

これには困ってしまい、見られないときの天候のデータを重視し、記録しました。

そうすると天気の良い暖かい日はほとんど見られないことに気が付きました。

そこで寒風の吹く、とても寒い日の満潮時に行くと、かなりの確率でボラの大群が見られたのです。やはりボラも、とても寒い日には、暖かい下水処理水を求めて避難先へ登って来るのかも知れません。

ところが、そういう理屈に合わない時に、ボラの大群が見られた時もあったのです。



これには私もどう解釈して良いか困惑しましたが、この写真をよく見るとボラに白斑が目立っています。これはどうやら「白斑病」のようです。

異常な遡上は、病気が原因の可能性が高いと思います。

「白斑病」の他に、ウイルスによる病気もかかりますから、その時には異常な行動をとるのは普通なようです。

あの時には10回ほどの観察で、シーズンは終わり、また次の機会に観察を再開したいと思ってはいましたが、あれから数年そのままになっていました。

そこに白石さんからのステキな写真が入り、もう一度ボラの遡上について調べたくくなりました。

現代の気候や環境の変化は大きいものがありますから、今年の遡上の原因は前回調査と大きく違う可能性があります。

ただ、私はいろいろと忙殺されており、数多く呑川に通い、遡上原因を追及調査することは出来そうにありません。

とても残念です。

そこでボラに関連して、2009/1/20の「呑川の会・拡大世話人会・新年会」の日に見た観察をレポートします。





蒲田に近い「山野橋」付近の呑川の水は黄色くにごって、とても見にくかったのですが、それでもボラの大群は呑川いっぱい広がっているのが見られました。



そこへやはりボラを狙っているのでしょう、カワウがボラ狙いをしていました。



するともう1羽のカワウがやって来ました。



2羽になったカワウは、この写真のようにぐるぐる回り始めました。ボラの泳ぎはとても早く、そう簡単には捕まえられません。そこでボラが逃げられないようにぐるぐる回って、その中にボラを閉じこめようというのです。これをカワウの「囲い込み猟」といいます。2羽のカワウがぐるぐる回っていると、さらにもう1羽のカワウがやって来ました。こうして最終的には4羽のカワウが「囲い込み猟」を始めたのです。



彼らのやり方は、「囲い込み」の効果が発揮され、ボラが逃げられなくなって輪の中に固まって集まっているときに、この写真のように一斉にもぐって、ボラを襲うのです。





するとどうでしょう・・・このカワウは見事ボラを口にくわえているではありませんか。この時の様子をよく観察すると、ボラはこの状態ですぐ呑み込むのではなく、ボラの頭を先にしてくわえ直し、ウロコが喉に引っ掛からないようにして呑むのです。その瞬間を撮りたかったのですが、あまりにも素早い動きでキッチリしたシャッターが切れませんでした。

さてこれでおしまいでは、まだ不十分です。  
食べたあとはどうでしょう・・・



お尻から白いフンを出したのです。  
鳥は飛ぶために、絶えず身を軽くする必要があります。  
だから食後は特にフンをするのです。

もっと色々観察を続けたかったのですが、「呑川の会・拡大世話人会」の時間が迫り、ここを去りました。それでも会の開会時間には少し遅れてしまいました。

とてもつまらないように見える「呑川」も、ていねいに観察すると興味深い生きものの姿にいつも驚嘆します。  
知りたいこと、調べたいことは沢山あって、ただただ時間が欲しいと感じています。

## 大田区との意見交換会 報告

今年5月の呑川をきれいにする会との第1回意見交換会に引続き、11月に第2回意見交換会を開催しましたので、遅くなりましたが、ご報告いたします。

開催日時 11月4日(火)10時から12時

出席者 区から東平環境保全課長、川野まちづくり課長他で

他に区議会の清波副議長(公明党)、奈須議員(生活者ネットワーク)が傍聴されました。

会からは次の通り、要望書を提出しました。

1. **大田区緑の基本計画(平成11年7月策定)による呑川緑道軸構想のその後の進捗状況の報告**  
大田区緑の基本計画では呑川は呑川緑道軸として一つの核として取上げられています。同計画で取上げられている緑道、ふれあい拠点、7mの標準幅員道路、あるいは五大拠点、橋梁整備・水源確保、水辺環境整備等につき平成20年3月末までの進捗状況と本年度の呑川に対する都との浄化対策研究会を含む検討項目・実施項目・計画項目をご報告ください。

2. **呑川・西蒲田地区の下水越流汚濁物の堆積状況と同地区河床構造の調査**

呑川の越流水による悪臭等の被害は西蒲田地区が最も大きい。その原因の一つに大平橋付近の河床が下流より深いという河床構造があるのではないかと考えられます。従ってまず大平橋を中心とする西蒲田地区の越流汚濁物の堆積状況と河床構造の調査を要請します。

3. **親水階段の設置**

呑川には河床あるいは水面まで降りられる親水階段はありません。しかし神田川においても高田馬場付近高田橋上流側に河床まで降りられる親水階段があります(写真参照)。



そこで呑川においても河床まで降りられる親水階段の設置を東京都と連携して進められることを要望します。親水階段の入口は通常は施錠し、学校行事、あるいは子ども会行事等の際、責任者の引率のもと利用が認められるのはいうまでもありません。

神田川 高田馬場付近 親水階段

4. **呑川未改修区間の改修計画に対し、東京都への大田区としての明確な要望の伝達**

現在 呑川の2箇所の未改修区間のうち八幡橋から下流70mの区間については改修工事が施工され、引続き本村橋から道々橋下流の下水道横断地点までの区間は施工されると聞いております。

しかし現在東京都で計画されている工事計画によりますと、大田区の環境調査報告書でも生息が確認されているマハゼ、スミウキゴリ、マルタ、ウナギの生息が保証されておらず、従ってそれらの稚魚を餌として同区間にみられるカワセミ、コサギ、カワウについても生息の保証はありません。

平成9年の河川法の改正により「河川環境の整備と保全」(第1条)が河川管理の目標のなっているのも関わらず、現状より生物環境が悪化することは考えられません。

大田区としても東京都に対し、様々な機会に要請されていますが、未だ書面による要請はされていないと聞いております。

従ってこの際、次の2点を含んだ書面による明確な要請をお願いいたします。

- (1).呑川の改修計画の検討段階で流域連絡会等を含め、流域住民、市民団体の意見を聴取する場を設け、流域住民の声が改修計画に反映される仕組みを設けること
- (2).呑川の生物環境として最終的には工大橋まで魚が生息できる環境を目指すとともに、まず未改修区間において現状より悪化しないようにすること。

5. **臭気測定体制の整備と被害の程度に応じた対策の推進**

公害に対する対策は被害の大きい箇所から重点的に実施するのが当然ですが、下水越流による被害の場合、まず第一の被害である悪臭そのものが組織的に測定されておられません。また悪臭防止法第16条においては下水溝、河川の管理者に悪臭防止のための管理を義務付けています。

大田区としてまず呑川西蒲田地区を中心に悪臭測定体制を整備するとともに、現在実施している諸

浄化対策を見直し、高濃度酸素溶解水の供給、炭素繊維の活用等新規方法も含め再検討すること、さらに被害地域住民から実態を汲み上げる仕組みづくりを要望します。  
また東京都に対しても悪臭等の被害の程度に応じて、貯留池の設置等の諸対策を講じるよう要請することを要望します。

## 6. 呑川案内板の設置

呑川沿をウォーキングする方がふえています。現在大田区が設置した案内板は4ヶ所ありますが、これをさらに充実し、地域の歴史と呑川との関係がわかる案内板を呑川ぞいの公園やフェンスを活用して設置を要望します。場合によっては都の第二建設事務所との協議もしてください。

案内板の例

中原幹線取水施設	石川橋付近
水神の森湧水跡	東調布公園付近 水神橋
水車場跡	道々橋付近
大森方面への分水路跡	双流橋付近
旧呑川の分岐点	清水橋付近
呑川の概略説明	電子工学院東の自転車駐車場

## 7. 呑川を風の道とするまちづくりの推進

ヒートアイランド現象が問題視される中、呑川は大田区を東南から西北へ貫流し、風の道としての活用が充分期待され、呑川を風の道とするまちづくりの推進を要望します。

以上

このうち「1. 大田区緑の基本計画(平成11年7月策定)による呑川緑道軸構想のその後の進捗状況の報告」については事前に連絡し、当日回答を求めましたが(回答内容は下記のとおり)、その他の項目については当日は会としての要望に留め、区としての回答は次回にするようにしています。

## 区側からの報告

区側からは現在都建設局、下水道局と合同で設けられている「呑川水質浄化対策研究会」でまとめられた呑川の水質浄化対策の説明があった。全般的にはこれは全体が良くまとめられて、具体的な対策のなかには大田区との意見交換会の席上、私たちが述べてきたことも含まれている。また「洗足小池の湧水の呑川への導水事業」、「初期雨水の貯留池整備事業」、「目黒区、世田谷区への協力要請」、品川区で実施している「高濃度酸素水導入事業」等、注目すべき事業もある。今後は区での着実な進展を期待したい。

## その後の経緯

11月4日の意見交換会を受け、私たちとして11月22日(土)、その反省会を実施、その意見を次のようにまとめ、12月8日まちづくり課へ口頭で伝えました。

・下水道の越流水問題については大田区、下水道局、建設局と同一の土俵に立ち、対策を推進する体制ができた、との印象はある。今後どう具体的に進めるか注視する必要がある。

また水質浄化対策の中には呑川をきれいにする会で提案・検討していた項目も含まれている。

例 汚濁物質の流入の削減について他区への協力要請

貯留池の整備

汚濁物質の滞留防止のための河床整正事業

・建設局関係事項でも大田区、建設局、NGO等が参加・協議する場が必要。

・区役所側の出席者が多い。もっと効率的にとの意見もあった

・大田区は呑川の実態について調査が不十分ではないか。

例えば呑川の河床縦断面図を持っていない、呑川の越流水の水質、流量等のデータを把握していない

- ・ミネラル・オーシャンについては特定の企業を応援している印象を受けた。
- ・一部説明中に寝ていた職員がいた。緊張感がない
- ・緑の基本計画は策定時からあまり進捗していなし、実績はもっと具体的に回答して欲しい
- ・大田区からの発言で期待したいもの

呑川を大田区民にとっての「観光」の場にしたい

「呑川緑道軸」からもう「呑川緑道」に進化させたい

ミネラル・オーシャンは南行政センターとしては来年度は予算要求しない予定である

高濃度酸素溶解水注入事業は積極的に検討したい。

これに対し、装置のコバケの用途を示して欲しい旨要望

区はハード面での整備はできてソフト面に弱いところもあり、市民団体等と協働してゆきたい。

( 福井 甫 記 )

## 「川」が語る東京

## 講演会の開催

11月22日都立向丘高校の先生で女子美術大講師の松井吉昭先生を講師にお迎えして「川」が語る東京と題した講演会を開いた。当日は朝日新聞マリオン欄で紹介されたこともあり、板橋区、杉並区等他区から参加者を含め30名ほどの参加者があった。

先生は「一 毛長川と毛長姫」、「二 入間川と足立姫」、「三 多摩川と新田義興伝承」、「四 「梅若」伝承と隅田川」の4つのケースで川に関する伝承を通して、人と川との関わりを紹介された。



「一」、「二」の毛長姫も足立姫の事情は若干異なるがいずれも入水した伝承であり、「三」も殺された新田義興の怨霊の鎮魂伝承、「四」は人身売買で連れてこられ、隅田川で病死した梅若と梅若を探し歩いていた母との悲話である。

中には明るい伝承もあるのだろうが、数が多いのは恐ろしい話、悲しい話なのだろう。

余談になるが「呑川」の由来について水がきれいで飲めるから、という説と洪水が多く人・物を呑み込むからという説があるという。しかしこのような伝承から考えれば、後者の方がもっとものように思われる。また角川漢和辞典によれば「のむ」の同訓には「飲む」、「呑む」、「咽む」、「嚥む」があり、このうち「飲む」は湯・水を飲むこと、「呑む」は物をかまずに丸呑みにすること、「咽む」、「嚥む」はのどの意で転じて一口づつのどにのみこむこととあった。とするとますます物を呑み込むから説の方に傾く。大昔から呑川は他の川以上に一気に増水し人・物を呑み込むことがあったのだろうか。

### 編集後記

高橋さんの素晴らしい報告が掲載でき、本当に喜んでます。つくづくと深く観察することが様々な発見につながることを感じます。

久しぶりに会報をまとめましたが、残念ながらいつもより読みにくくなりました。私のパソコン力ではこれが限度なので、ご勘弁ください。

福井 甫